

## 第八、九回 幸福師匠！おーえん会（報告）

「第八回幸福師匠おーえん会」は、令和5年11月11日（土）に名古屋の大須演芸場で開かれた「名古屋物語クラシックス」に参加してきました。岐阜東高校同窓会「幸福師匠おーえん会」からは4人のメンバーが駆けつけました。

令和5年12月2日（土）は、岐阜市神田町の喫茶店星時で「登龍亭幸福・旭堂鱗林二人会」が開かれ、「第九回幸福師匠おーえん会」から9人のメンバーが参加しました。今回は、この第八、九回の二つについて一緒に報告します。

### 1. 「第八回幸福師匠おーえん会」について

今回は「名古屋市民芸術祭2023（概要は次ページ）」に応募した事もあって、幸福師匠からも是非にどのお誘いがありました。この芸術祭は、名古屋市内で音楽・演劇・舞踊・伝統芸能のいずれかの公演を行う団体又は個人に対し「名古屋市民芸術祭賞に挑戦する参加公演」を募集するもので、幸福師匠が所属する大須演芸場の芸人団体として応募されたようです。日ごろの芸術活動に加え、来場者の状況も採点されるとあって活況がありました。

一、開口一番：幸福師匠の一番弟子（何人か居た内のひとり）登龍亭幸吉さんの挨拶から始まりました。

一、旭堂鱗林師匠の「猿猴庵（えんこうあん）日記」は、江戸時代に名古屋の芸能活動に貢献した芸人を猿猴庵が絵日記に残しました。大須観音を中心に、江戸や大阪に劣らず繁栄していたことが分かります。名古屋市博物館に本物の絵面が展示されているそうなので、今度見に行ってきます。

一、登龍亭福三さんの「堀川ケッタマシーン」は、転校生の女子を自転車に乗せ、堀川に掛かる七つの橋「五条橋・中橋・伝馬橋・納屋橋・日置橋・古渡橋・尾頭橋（おとうばし）」を順に巡る、思い出作りに心を弾ませる落語でした。一、登龍亭幸福師匠の「名古屋弁指南」は名古屋弁の「やっとかめ、わやな、～まい、～だもんで、なにい、おうちゃくい・・・」などを紹介し、名古屋に近い岐阜でも自分が子供の頃（ほぼ50年前）には、近所の爺さんや婆さんが使っていたので岐阜弁に影響していたと再認識しました。岐阜では「みゃーみゃ～」とはあまり言いませんけど、幸福師匠のしゃべり（名古屋弁）の意味が分かり、語り口も懐かかったです。江戸時代、加納城は徳川の管轄下であり同じ文化圏だったのも頷けます。「伝統文化とは、地域密着型の生活が織りなす日々の暮しに在る。」と改めて感心しました。

一、登龍亭獅筆師匠の「名古屋心中」は、江戸時代の身分の違いを乗り越え、憧れの花魁を見受けするハッピーエンドの話でした。「幾代餅（いくよもち）」を思わせる人情噺も、尾張の殿様徳川宗春公が築かれた芸術文化の名古屋を今にも伝える様でした。



## 名古屋市民芸術祭 2023 公募内容

2023年10月から11月にかけて、名古屋市内で音楽・演劇・舞踊・伝統芸能のいずれかの公演を行う皆さまから、名古屋市民芸術祭賞に挑戦する参加公演を募集します。

1. 参加資格名古屋市内を主な活動の基盤として、恒常的に芸術創造活動を行っている団体又は個人。参加希望公演初日の時点において3年以上の活動実績が必要です。※主たる練習会場もしくは主たる公演会場が名古屋市内であれば、団体所在地が名古屋市外でもご応募いただけます。

<一団体又は個人の参加回数の制限について>

①連続参加は2回までとします。

②市民芸術祭賞受賞の翌年は参加できません。(特別賞は可)

③参加回数が5回に達した場合は参加できません。ただし、5回に達してから2年を経過したのちは参加することができます。

### 2. 参加部門

各部門に掲げたジャンルは、参考例示です。参加する部門は、参加希望者が選択してください。

- ・音楽部門／クラシック、ポピュラー、邦楽等の公演
- ・演劇部門／演劇、ミュージカル、人形劇、朗読、話芸等の公演
- ・舞踊部門／バレエ、現代舞踊、ジャズダンス、民族舞踊、邦舞等の公演
- ・伝統芸能部門／邦楽、邦舞、能楽等の公演

### 3. 参加条件

#### ■ 公演内容

参加者の主催・制作・出演による公演で企画性に富み、意欲的な内容を持った市民芸術祭にふさわしい作品であることを必要とします。教室等のおさらい会、発表会、入場無料の公演、チャリティー公演、政治的・宗教的意図の顕著な公演などは該当しません。

#### ■ 参加方法

①参加は公演単位とします。ただし、2部以上の構成による公演のうち、一つの部を参加の単位とすることもできます。

②同一の団体又は個人による参加は1公演に限ります。

#### ■ 参加期間

10月1日(日)から11月30日(木)までとします。

#### ■ 公演会場

①名古屋市内に限ります。

②野外は不可とします。

③公演の全客席数が200席以上であることを条件とします。

※動画配信を併用する公演も参加可能ですが、配信視聴数は客席数に含むことはできません。

(全客席数=公演会場の客席定員数×公演回数)新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、事業内容を変更する場合があります。

公演開催にあたっては開催時点の状況に応じて名古屋市が定める「文化施設における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、感染拡大防止対策の実施をお願いします。

芸術の秋、市民芸術祭賞の栄冠を目指して、ふるってご応募ください。

また、参加団体には上限5万円の助成金を交付します。企画性に富んだ意欲的な公演をお待ちしています!



## 2. 「第九回幸福師匠おーえん会」について

○登龍亭幸福師匠は「博打」の話でした。子分たちがコソコソとサイコロ博打をやるので、それを咎めようとした親分でした。しかし、子分たちは、親分がその昔「サイコロ博打」でならしたと聞き及んでいる。是非腕前を見たいと、親分に胴元を受けて欲しいと誘い込むのでした。親分はサイコロをツボに入れて振った。ところが、ツボの外には「一の目」が上になったサイコロがこぼれている。子分たちは全員、「一の目」に張る。「いいんですか、良いんですか」と親分に念を押す。親分は「ツボの中のサイの目が勝負だ」と言って、こぼれたサイコロをハズしてしまう。ツボの中からは「五の目」のサイコロが出てくる。まんまとイカサマに引っ掛かった子分たちでした。そんな子分の一人が、親分の真似をして「インチキ」をする。「一の目」をツボの外に見せる迄は良かったが、そこは未熟な子分、ツボの中からも「一の目」が出てきて、大損をするのでした。



○旭堂鱗林師匠は、10月11日に京都市で開かれた第71期王座戦五番勝負第4局の講談『藤井聡太の将棋一番勝負』です。手造り小道具を交えての語りは臨場感アップでした。鱗林師匠は10月11日の大阪での講談を終えて、その日の内に瀬戸までトンボ帰りして8個目の薬玉割に間に合いました。その勢いは、「勝手連応援大使」にふさわしい行動力でした。

○幸福師匠のお弟子さん、登龍亭幸吉さん。講座でヒョウヒョウとした語り口が、マイペースでナカナカものだと、師匠の印象でした。

○次回の「幸福師匠おーえん会」の紹介。

落語や講談といった日本の伝統話芸を楽しむため、岐阜東高等学校同窓会では、「幸福師匠おーえん会」を支援しております。岐阜市神田の喫茶店「星時（ほしどき）」で開かれている「二人会」にお邪魔をし、伝統話芸を広めたいと活動しています。老若男女どなたでも参加でき、日本の伝統話芸の面白さや意味の深さを知る機会となっています。

次回は来年、令和6年3月9日土曜日7時から星時で開催されます。今後も「幸福師匠おーえん会」では、まとめて席をお取りしておりますので、是非、生（なま）の落語・講談を聴きたいと思われる方はご連絡下さい。

「幸福師匠おーえん会」 代表 坂井至通（12期卒）